

自己紹介:楠永洋介

小学校3～4年を不登校、次いで中学校1年2学期～2年生を不登校、義務教育期間中は正味5年程しか登校していません。定時制高校を卒業後、進学、卒業を拒否して祖父の遺したお金でネットスクールや、ワークショップ、FXなどを経験してお金を溶かしました。なんやかんやあって結婚後、2人の子供を授かる。現在、農業、整体業、塾講師等で生計を立てる。

皆様お久しぶりです。楠永です。今月のひとりごと始めていきます。

染物覚書

先月19日の手仕事研究くらぶで染物をいたしました。手芸店で手に入る布用染料を用意して、来ていた方のストールをグレージュに染めてみました。一通りの基本的な工程を踏んで、なんとなくの手順が分かった後、また出てきた疑問点をインターネットで調べてみるといろいろな事が分かりました。まだまだまとめ上げる程のものでは無いのですが、ここに覚書として記しますね。先にお目汚し、あるいは当たり前の事や、間違っている事を書くこととなるかも知れない事をお断りしておきます。

着色剤は大別して2種類

まず今まで「インク」、「顔料」、「塗料」、「染料」とあやふやに認識しておりましたが、どうやらそれぞれ別の物のようです。言葉が違うので当たり前と言えども当たり前ですね。ここで今調べられたのは、いわゆる私が「絵の具」と思っていた物は、「着色剤」と「溶剤」を混ぜ合わせた物のようです。溶剤は「油性」や「水性」と言われ聞いたことのあるものでそれぞれシンナーや水によって着色剤を溶かした物(正確には片方は溶けないのですが、、、)のようですので、その溶剤に合わせた薄め液が必要だと思われまます。

「着色剤」はサッと調べた限り、「顔料」と「染料」に別れ、顔料は溶剤に溶けず、相手に染み込まない、染み込みにくいという性質がありそうです。そして染料は溶剤に溶けて相手に染み込みやすく、滲みやすい、という性質がありそうです。用途や使途に応じてその方法を変えていくのが塗料の技術のようです。

染物について

次にいよいよ染物について書くのですが、その基本的工程は以下かと思われまます。

- ① 下処理
- ② 染色
- ③ 色止め

上記の工程間に乾燥という工程も入ったりしますが、私に特記すべき情報が無いのでここでは省かせていただきました。

染物について分かった事を書く前に、今回の染物に使った染料について記します。今回はコールドダイオールといわれる手芸店で購入したのを使用しました。一色¥600強でした、低音でも良く染まる扱いやすい物でした。

簡単に染物が出来ると、また欲が出るというのが人間で「どうせなら天然色素を使ってみたい」と思い調べると「草木染め」なるものに当たり、その手法を調べると数の多くの手間と技術に支えられた物だと分かりました。

※ここから先はさらにあやふやな情報が多くなります。

- ① まず草木染めでは綿、麻などの植物由来の生地は美味しく染まらないようで、①の下処理の際にたんぱく質を添加するために豆乳を生地に染み込ませる等の工夫が必要なようです。
- ② について天然色素を利用する草木染めにおいては、鮮やかな色を調達するのは難しく、昔から高級品とされた、紅花の赤や紫根の紫などの美しい色味は相応の手間が必要なようです。
- ③ の工程も草木染めの場合、主に「媒染染色」になるらしく、媒染剤による色止め、定着の工程が必要になるようです。よく見かけたのは鉄媒染、アルミ媒染(ミョウバン)が一般的ようです。昔は特定の木材の灰等が利用されたようですが、あくまで体験的に経験値を積み上げたようです。

染物は化学の分野の化学反応が多く利用され、非常に興味深かったです。ここに書いていない些末な経験値もありますので、手仕事研究きていただいたら、話します。

今月もありがとうございました。

御案内

感想、質問頂けると励みになります。また仕事の依頼（整体等）頂けると生きる糧になります。整体に関してはホームページ等覗いて見てください。

緑陰整体指導研究室

ホームページ

<https://ryokuinseitai.business.site/>

ご意見、ご感想、ご依頼は下記にお願いいたします。

電話番号

090-4979-6409

メールアドレス

ryokuin.seitai@gmail.com